

# 私立大学情報教育協会 大学職員情報化研究講習会 研修報告

A-2班・ミタワケア大学

日時：2016年7月20日～22日

場所：浜名湖ロイヤルホテル

発表テーマ：「コミュニケーション能力を持つ人財の育成」

## 1. テーマ設定について

A-2班・ミタワケア大学では、「大学の役割」、「役割に応えるためにすべきこと」、「大学の現状」、「ICTによる改善策」の各項目についてブレインストーミングを行い、項目ごとに思い当たるキーワードを付箋に書き出した。さらに、出てきたキーワードを元に、各項目についてより深く話し合い、テーマを設定した。



キーワードを付箋に書き出し、模造紙に貼っていった。

### <大学の役割>

近年、大学に求められる役割は年々幅広くなっている。今回の討議においても、非常に多くの役割が挙げられたが、大きく分けると、「人材育成」、「研究」、「社会貢献・地域貢献」の3点に集約された。

まず、広く社会に役立つ人材を育てることは、どの大学も忘れてはならないことなのではないだろうか。近年ではグローバル化、少子高齢化、そして情報化が進み、国際的に活躍できる人材や、専門的・実用的な知識を持った人材が各所で必要とされてきている。

また、大学は教育機関であると同時に、研究のための機関でもある。大学は、高校までの教育機関とは異なり、教科書にないことも学ぶ。常に専門的な追求を行い、社会の発展に貢献することが求められる。

さらに、社会に役立つ人材を育成すると同時に、大学自体も社会や地域に貢献すべきである。昨今では産学連携も盛んになり、企業との協力によって、より安心・安全な社会および地域づくりに貢献している事例もある。

上記の<大学の役割>についての討議後も、活発な議論が続いたが、結果的に人材育成<sup>1</sup>が大学にとって特に重要なのではないかと結論に至った。質の高い人材育成を行っていくことは、ひいては地域や社会への貢献、そして研究の領域にもつながっていくのではないかと考えた。

### <社会に出て活躍できる人財を育成するためには>

では、社会では実際にどのような人財が必要とされているのだろうか。討議の中では、現代は「将来に対しての不安が蔓延している」、「冷たい社会だ」など、不透明な先行きを表現するキーワードが挙げられた。

例えば、私たちのすぐ近く、地域との関わりのレベルでは、つながりが希薄になっていると言われ、地域によっては過疎化が進んでいる。さらには少子高齢化の影響もあり、孤独死の問題も深刻になっている。

また、世界を見渡してみれば、甚大な被害を及ぼす災害やテロなどが頻発し、心から安心して日々を過ごすことが困難になっている。

こうした、「先行き不透明」な時代に必要なのは、協同して助け合うことではないだろうか。常に他人との関

<sup>1</sup>人材とは、才能、才知がある人物、役に立つ人物をさす。一方で人財とは、人材の意味を発展させた言葉である。人＝財産という意味を持たせ、実績を持ち、成長が期待できる、企業にとって財産になりうる人材をさす。ミタワケア大学では、学生を地域や企業にとって財産となりうる人材に育てるという意味で人財を使用する。

わりを持ち、いざという時には率先して助け合い、協働できるコミュニケーション能力<sup>2</sup>を持つ人財の育成が必要になっていると考えた。

## 2. テーマ：「コミュニケーション能力を持つ人財の育成」について

<コミュニケーション能力が求められる場面とは>

現在、コミュニケーション能力はあらゆる場面で求められている。地域との間では、地元の人々との連携やコミュニケーションの必要性が求められており、地域創生というキーワードもよく耳にする。実際に地域との密接な関わりを売りにしている大学も少なくないのではないだろうか。

また、企業との間では、採用時にコミュニケーション能力が求められているというデータ<sup>3</sup>もある。さらに、昨今の国際化の流れの中では、様々な宗教や言語、価値観をバックグラウンドに持つ他者を理解する力が求められている。

以上の中で、我々は特に「地域との間」に注目し、地域社会との連携を通して、学生のコミュニケーション能力の向上を図るための方法を考えた。

## 3. コミュニケーション能力を持つ人財を育成する試み：

### 「ミタワケア大学地域連携 BCP プログラム」について

このプログラムでは、災害対策ボランティアに学生が参加することによって、学生のコミュニケーション能力の向上と地域に根差した災害対策の実行を両立する。

<具体的な取り組み>

#### 1. 自治体（役所、公共施設）との災害情報・救援情報の共有体制の構築

学内システムと連携し、地域ボランティアの情報を学生ポータルで配信するなど、情報発信をする仕組み作りを行う。大学事務局としては、学生へボランティア参加の機会を与えることができる。学生は必要なボランティア情報を常時確認することができ、自主的に参加することができる。自治体は、人手が足りない部分を学生ボランティアの協力により補うことができる。また、こうした取り組みを継続的に日頃から実施していることで学生の災害に対する意識の向上が期待され、実際に災害が起こった際には、救援情報を迅速に広めることができる。

#### 2. 企業との情報共有や協力体制の構築

近隣スーパーや運送会社などと協力し、地元企業との連携を行う。大学が中心となって、地域の災害対策に企業も協力してもらい体制を構築する。また、学生がその地域・企業への関心を持つきっかけにもなり、地域との密接な関係性の構築・キャリア教育にもつながる。

これらの取り組みによって、以下のような成果が期待される。

- ①地域の人々と密に連携することで、学生のコミュニケーション能力の向上が期待できる
- ②学生に普段から自然災害への危機感を持たせることができ、教育の一環になる
- ③災害対策を実行することができる

ミタワケア大学では、以上のような取り組みを通して、学生のコミュニケーション能力の向上と、地域密着型の災害対策の両立を実現する。

<sup>2</sup> ミタワケア大学では、「コミュニケーション能力」を「他者と理解し合い、協働できること」と定義した。

<sup>3</sup> 一般社団法人 日本経済団体連合会 「2015年度 新卒採用に関するアンケート調査結果の概要」を参照